

○全国 国宝・重要文化財（美術工芸品）指定件数

種 別	新 指 定 件 数		合 計
	国 宝	重 要 文 化 財	
絵 画		5	1, 974 (158)
彫 刻		7	2, 654 (126)
工 芸 品		6	2, 428 (252)
書 跡・典 籍		6	1, 882 (223)
古 文 書		5	739 (60)
考 古 資 料		8	586 (44)
歴 史 資 料		6	167 (3)
合 計		43	10, 430 (866)

(注) 合計欄括弧内の数字は国宝の件数で、内数である。

○全国 登録有形文化財（美術工芸品）登録件数

	新規登録件数	合 計
絵 画		
彫 刻		
工 芸 品		3
書 跡・典 籍		1
古 文 書		
考 古 資 料	1	3
歴 史 資 料	1	6
合 計	2	13

○奈良県 国宝・重要文化財（美術工芸品）指定件数

種 別	現 在 数	新 指 定 件 数				合 計
		重文から国宝	未指定から重文	県指から重文	重美から重文	
絵 画	135(14)					135(14)
彫 刻	504(70)		1			505(70)
工 芸 品	231(38)					231(38)
書 跡・典 籍	189(14)		1		1	191(14)
古 文 書	53(3)					53(3)
考 古 資 料	50(9)					50(9)
歴 史 資 料	10(0)					10(0)
合 計	1,172(148)		2		1	1,175(148)

(注) 合計欄括弧内の数字は国宝の件数で、内数である。

○奈良県 登録有形文化財（美術工芸品）登録件数

	新登録件数	合 計
絵 画		
彫 刻		
工 芸 品		
書 跡・典 籍		1
古 文 書		
考 古 資 料		
歴 史 資 料		1
合 計		2

<彫刻の部>

(未指定文化財を重要文化財に)

もくぞうてんがい しよざいほっけどう
木造天蓋 (所在法華堂)

三面

【大きさ】最大径 中の間分 169.5 cm

東の間分 184.2 cm

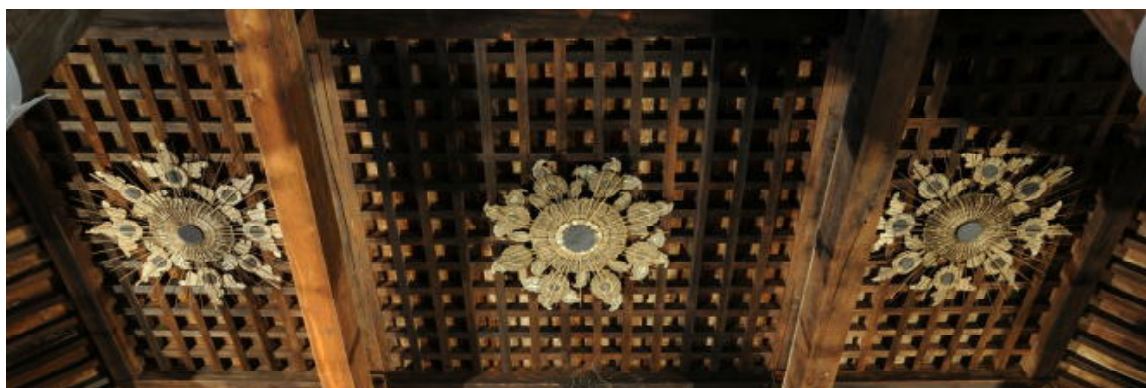
西の間分 179.9 cm

【所有者】宗教法人東大寺 (奈良市雑司町406-1)

東大寺法華堂の三間の各中央に付けられている天蓋である。東西間のものは法華堂建立時の作で、奈良時代文書にみえる「倒蓮華」^{とうれんげ}の現存唯一の例である。中央間のものは鎌倉時代に、東西間分に形式を合わせて補作されたものである。

奈良時代仏堂の天蓋の遺品として貴重である。

(東・西：奈良時代、中央：鎌倉時代)



<書跡・典籍の部>

(重要美術品を重要文化財に)

へきあんしょう
僻案抄

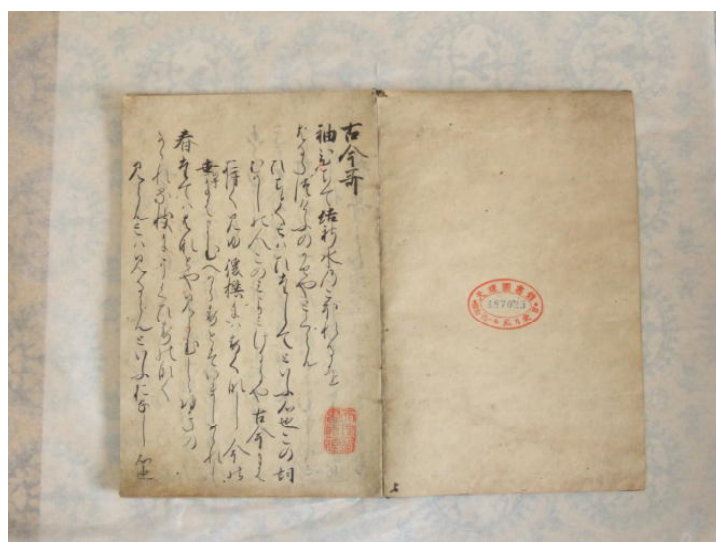
一帖

【大きさ】縦 24.2 cm 横 15.5 cm

【所有者】学校法人天理大学（天理市柚之内町 1050）

『僻案抄』は藤原定家（1162～1241）が、『古今集』『後撰集』『拾遺集』の三代集中の和歌・作者などについて父俊成（1114～1204）より受けた教えを子孫に伝えるために撰述した歌学書である。本書は、難解歌の注解・考証が中心で、奥書によれば、定家が子の為家（1198～1275）に伝授すべく書いたものである。鎌倉時代の古写本として和歌史上貴重である。

（鎌倉時代）



<書跡・典籍の部>

(未指定文化財を重要文化財に)

とうだいじしやうぎやう
東大寺聖教

千八百六点

【所有者】宗教法人東大寺（奈良市雑司町406-1）

本聖教は、東大寺に伝来した、八宗にわたる諸宗の古経巻から構成され、時代は奈良時代から江戸時代にまで至る。写本は、平安・鎌倉時代書写の華嚴・三論など南都諸宗の所依の經論章疏が充実しており孤本も多い。版本は、鎌倉時代に新渡した宋版や泉涌寺版の戒律関係仏書をはじめ、春日版・東大寺版などの南都諸寺開版になる多種の和版がある。経巻に書き込まれた訓点資料(読み仮名や返り点)は、訓読の時代相を伝えるものとして国語学上にも貴重である。奈良時代以来の東大寺の法会と修学を支えたものであり、質量共に南都を代表する聖教群として仏教史上価値が高い。

(奈良時代～江戸時代)

